(畜試 肉牛部)

1. 背景とねらい

日本短角種の産肉能力等経済性の向上を図るため、計画交配により優れた能力を備えた種雄牛を 生産確保し、その効率的利用により集団的な育種改良を推進することを目的として「日本短角種集 団育種推進事業」が展開されている。

同事業で実施した平成5年度直接検定成績を改良指導のための参考に供する。

2. 技術内容

- 1)本年度検定頭数は第1期20頭,第2期14頭の計34頭であった。検定終了後の供用頭数は18頭で、供用率52.9%であった。
- 2) 供用牛の1日当たり平均増体量は、第1期1.26kg、第2期1.33kgであった。
- 3) 選抜指数値、検定成績、血統、体型等を比較検討し、間接検定実施予定牛5頭を選抜した。 笹錦、笹藤、清岩、若福および秋月である。
- 4) さらに、杉秋、菊幸および滝月28の3頭を現場間接検定実施予定牛として選抜した。

3. 指導上の留意事項

1) 直接検定方法

[期 間]

第1期 単房 平成 4年10月20日~平成 5年 3月 9日 (140日) 第2期 群房 平成 4年11月 3日~平成 5年 3月23日 (140日) 「飼料】

濃厚飼料 産肉能力検定飼料 (TDN73.0% DCP10.5% DM87.6%)

粗 飼 料 乾草飽食 (第1期; TDN45.1% DCP 4.6% DM83.4%) (第2期; TDN44.9% DCP 4.5% DM82.8%)

[飼養方法等]

単飼

2時間/日運動場で運動

群飼(4~5頭1群) 6時間/日房付設パドックで運動

2) 選抜指数式

I = 21.749 (DG) - 0.254× (皮下脂肪厚) + 10 皮下脂肪厚:皮下脂肪厚 8 箇所の合計 (超音波診断装置)

4. 試験成績概要

供用牛18頭の検定成績

			:					
検定			D G	皮下	1kg増体	365日		現場
	名 号	父		脂肪厚	当りTDN	補正体重	間検	
NO			(kg)	(mm)	(kg)	(kg)		間検
	usta. ++-	油 本	1 01	80	4.84	464.3		
1	貴花	波幸	1.31	74	5. 19	510.7	0	
2	笹錦	笹豊	1. 25		4. 29	501.0		
3	宝泉	崎宝	1.47	92	**			
4	敏 富	杉富	1.13	88	5. 29	476.8		
6	笹 藤	笹豊	1.48	91	4. 17	522.8	0,	
8	清岩	清房	1.34	71	4.47	438.7	0	
1 0	滝 月 3	松月山	1.09	74	5. 12	398.9		
1 2	琴泉	琴頬1019	1.17	9,1	4.66	447.4		
1 6	杉秋	琴房	1.27	93	4.37	469.8		
1 7	菊 幸	波幸	1.14	88	4.69	456.2		0
1 9	花 藤	若花	1.16	91	4.42	436.1		
2 1	秋 川	琴頬1019	1.35	98	4.46	449.4		1
2 2	滝月28	松月山	1.23	95	4.79	431.8		0
2 3	中 福	清 房	1.32	8.5	4.54	425.8		
2 9	若福	若 花	1.44	93	4. 24	458.0	0	
3 0	秋 月	秋蛇1315	1.29	82	4.64	449.0	0	
3 2	笹 峰	波宝	1.24	82	4.44	442.9		-
	重崎	崎藤	1.44	98	3.97	472.2		
供用牛の平均		1.28	87	4.59	458.4			
	全検定牛の平均			90	4.73	447.0		
	選 抜	差	+0.05	- 3	-0.14	+ 11.4		